

滋賀大学における 高度統計人材育成について

滋賀大学 学長
竹村 彰通

2025年9月4日
第5回統計エキスパート育成に
向けたワークショップ

項目

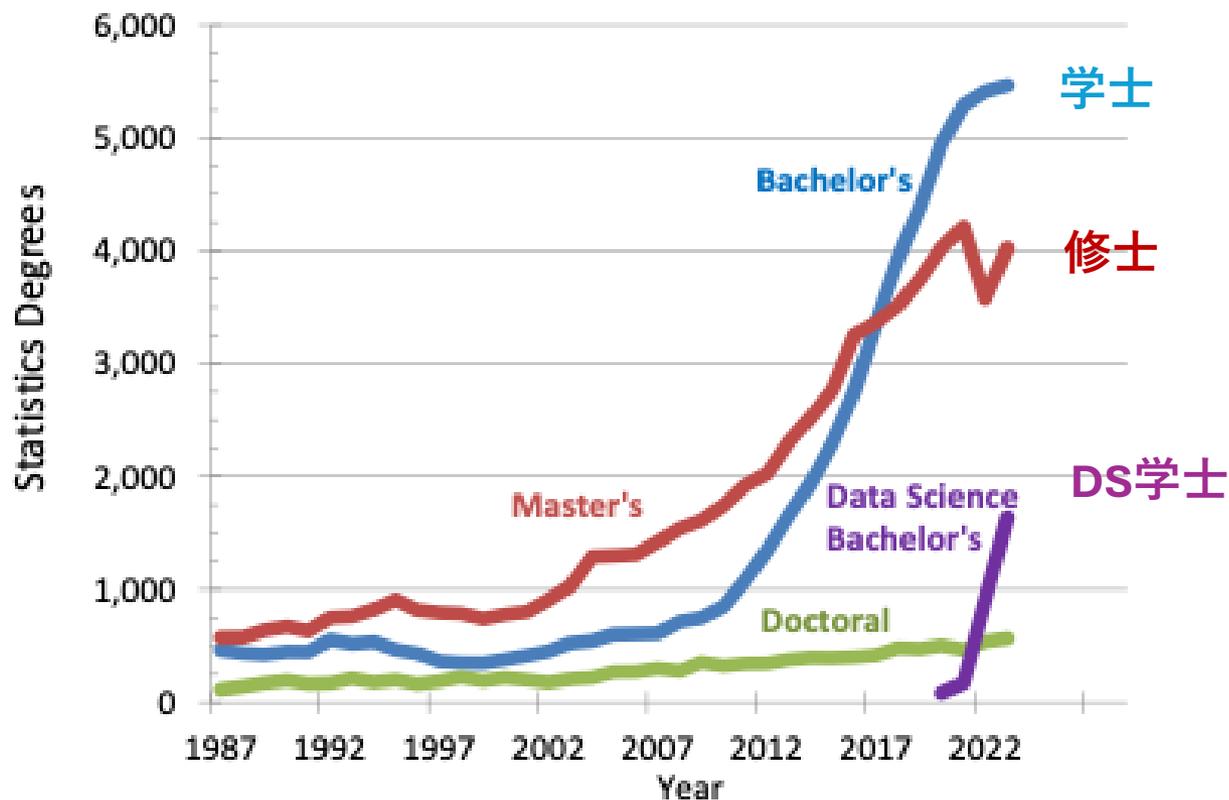
- デジタル分野での日本の遅れ
- データサイエンス人材育成の現状
- 滋賀大学データサイエンスの経緯
- 滋賀大学の企業連携の紹介

デジタル分野での日本の遅れ

「デジタル敗戦」

- IMD世界デジタル競争力ランキング(2024)
 - ✓ 67の調査対象国・地域のうち日本は総合順位で31位
 - ✓ 世界一はシンガポール、6位は韓国
 - ✓ 「デジタルスキルの習得」で最下位の67位
 - ✓ 「ビッグデータや分析の活用」で64位
 - ✓ 一方「100人あたりのブロードバンドの普及率」2位
 - ✓ 「世界のロボットに占めるシェア」は2位
 - ⇒ ソフトウェア分野で遅れ

アメリカの統計学関連学位授与数 (アメリカ統計学会報2024年11月)



National Center for Educational Statistics による分野分類

- データサイエンス系が急速に伸びている
- コンピュータサイエンスやAI関連の学位も考えると、日本より1桁多い

教育改革に向けた主な取り組み

デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎などの必要な力を**全ての国民**が育み、あらゆる分野で人材が活躍

主な取組

育成目標【2025年】

エキスパート

先鋭的な人材を発掘・伸ばす環境整備

- 若手の自由な研究と海外挑戦の機会を拡充
- 実課題をAIで発見・解決する学習中心の課題解決型AI人材育成

応用基礎

AI応用力の習得

- AI×専門分野のダブルメジャーの促進
- AIで地域課題等の解決ができる人材育成（産学連携）

認定制度・資格の活用

- 大学等の優れた教育プログラムを政府が認定する制度構築
- 国家試験（ITパスポート）の見直し、高校等での活用促進

リテラシー

学習内容の強化

- 大学の標準カリキュラムの開発と展開（MOOC※活用等）
- 高校におけるAIの基礎となる実習授業の充実

小中高校における教育環境の整備

- 多様なICT人材の登用（高校は1校に1人以上、小中校は4校に1人以上）
- 生徒一人一人が端末を持つICT環境整備

トップクラス育成
100人程度/年

2,000人/年

25万人/年

（高校の一部、高専・大学の50%）

50万人/年

（大学・高専卒業生全員）

100万人/年

（高校卒業生全員）

（小中学生全員）

※Massive Open Online Course：大規模公開オンライン講座

モデルカリキュラムと認定制度 (文部科学省)

エキスパート

2,000人/年
(トップクラス100人/年)

エキスパート

データサイエンス・AIを駆使してイノベーションを創出し
世界で活躍できるレベルの人材の発掘・育成

応用基礎

25万人/年
(高校の一部、
高専・大学の50%)

自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得



応用基礎レベル
モデルカリキュラム

リテラシー

50万人/年
(大学・高専卒業生全員)

初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得

リテラシー
(コア学修項目)

導入：社会における
データ・AI利活用

基礎：データ
リテラシー

心得：データ・AI利活用
における留意事項

リテラシーレベル
モデルカリキュラム

数理・DS・AI教育プログラム認定制度: リテラシーレベル (2021年開始)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

メニュー

> English

サイト内検索

検索

絞り込み検索 キーワード

トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育 > 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 > 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)

● 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)

令和3年2月24日

内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し、各大学・高等専門学校における数理・データサイエンス・AI教育の取組を奨励するため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」を検討してきたところ、このたび、実施要綱等を決定し、募集を行うこととしましたので、お知らせします。

1. 目的

大学等の正規の課程であって、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とします。

2025年8月時点累積認定数: 592件

認定制度:応用基礎レベル (2022年)



> English

サイト内検索

検索

絞り込み検索 キーワード

[トップ](#) > [教育](#) > [大学・大学院、専門教育](#) > [数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度](#) > [数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度\(応用基礎レベル\)](#)

● 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)

1. 目的

大学(大学院を除き、短期大学を含む。)及び高等専門学校(以下「大学等」という。)の正規の課程であって、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、数理・データサイエンス・AIに関する実践的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とします。

2. 公募説明会(リテラシーレベル・応用基礎レベル)

令和4年度認定に向けた申請について、以下のとおり説明会を開催いたします。

(1)開催日時:令和4年3月17日(木曜日)14時00分から16時00分

(2)開催方法:オンラインにて開催することとし、参加登録いただいた方に接続先等をご連絡いたします。参加登録については、以下の参加受付フォームから登録願います。(受付締切は、令和4年3月15日(火曜日)17時00分)

2025年8月時点累積認定数 366件

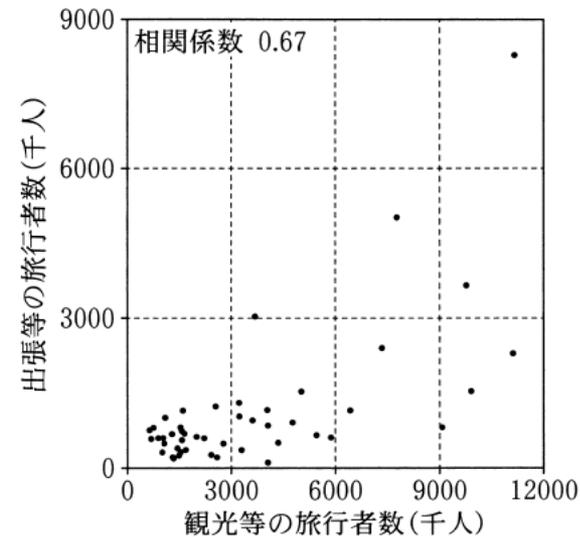
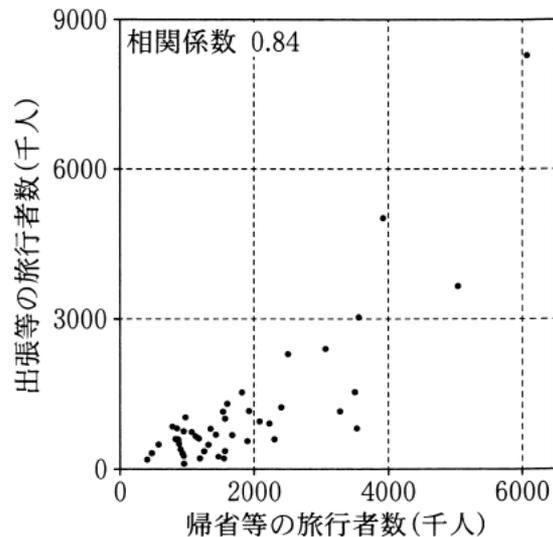
高校で「情報Ⅰ」が必修化 (R4より)

今年1月の大学入学共通テストでの情報Ⅰの問題の例

情報Ⅰ

表2 都道府県ごとの旅行者数と旅行目的別の内訳(抜粋)

番号	都道府県	旅行者数(千人)			合計
		出張等	帰省等	観光等	
1	北海道	3652	5052	9768	18472
2	青森県	1015	1566	1097	3678
3	岩手県	1158	1537	1606	4301
<hr/>					
47	沖縄県	662	1127	5446	7235

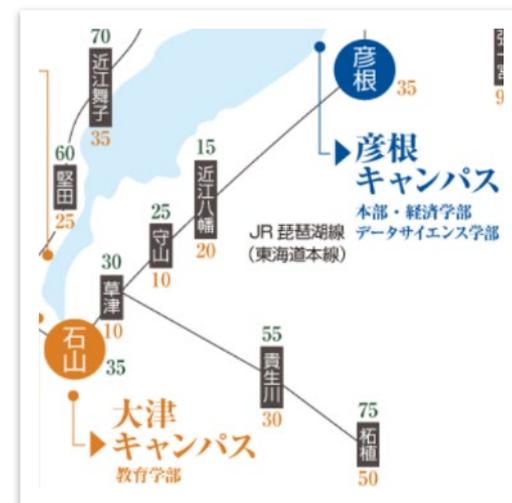


相次ぐデータサイエンス系学部の創設（一部）

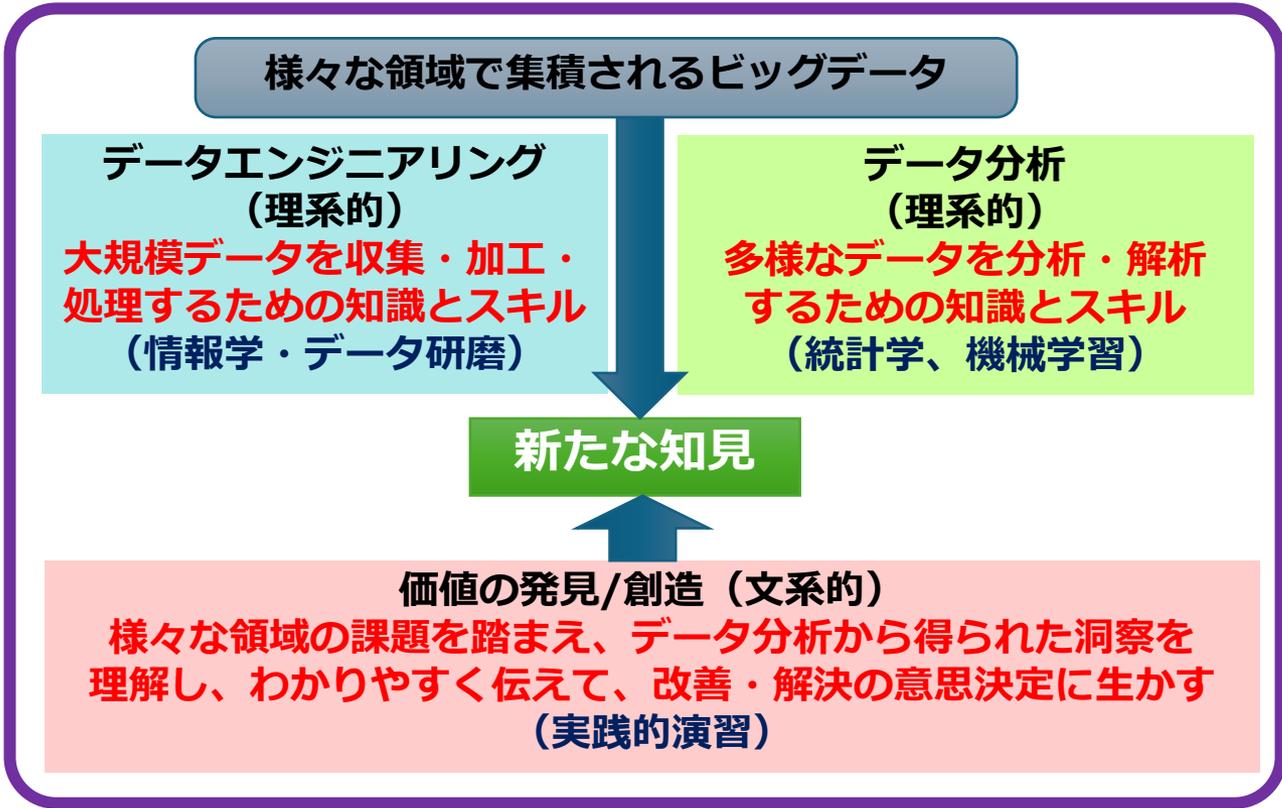
- 2017年 滋賀大学データサイエンス学部
- 2018年 横浜市立大学データサイエンス学部
- 2019年 武蔵野大学データサイエンス学部
兵庫県立大学社会情報科学部
- 2020年 長崎大学情報データ科学部
- 2021年 立正大学データサイエンス学部
群馬大学情報学部
- 2023年 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部
名古屋市立大学データサイエンス学部
京都女子大学データサイエンス学部
大阪成蹊大学データサイエンス学部
順天堂大学健康データサイエンス学部
- 2024年 千葉大学情報・データサイエンス学部
宇都宮大学データサイエンス経営学部
富山県立大学情報工学部
- 2025年 秋田大学情報データ科学部
関西大学ビジネスデータサイエンス学部
大妻女子大学データサイエンス学部

滋賀大学データサイエンスの経緯

- 2016年DS教育研究センター
- 2017年DS学部
- 2019年DS大学院
- 2024年高度情報専門人材事業採択による拡大
- 2024年経済学研究科経営分析学



データサイエンス教育：滋賀大モデル/文理融合



統計重視、文系重視

産学連携教育 (PBL)

- データや課題は大学にはない
- データからの「価値創造」能力の育成
- 企業からは即戦力として期待されている

滋賀大DSの卒業研究の例

発表者(指導教員)	発表タイトル
松本拓朗(奥村太一)	高校生の文理選択における選択理由及び選択後の不安に関する分析
武本理央(河本薫)	状態空間モデルを活用した、小売店のサービスデーの効果の違いに関する多面的な考察
村瀬亮多(河本薫)	空調の不快感を推定する非線形状態空間モデルの提案およびパラメータ推定アルゴリズムの開発
渡邊湖都(河本薫)	機械学習を用いた打音判別
三浦佳那栄(佐藤智和)	画像処理による手形状の三次元復元とプロセス間通信を用いた他アプリへの応用
吉田康太郎(佐藤智和)	NeRFを用いた大規模環境の自由視点画像生成
植村歩実(市川治)	Spotify APIで取得した楽曲情報を利用した楽曲分析と推薦方法の提案
上山健太(寺口俊介)	低評価数の非表示化によるYouTubeのコメント欄の変化の考察
佐藤寛徳(松井秀俊)	シェアサイクルポートの空車状況に対する空間データ分析
辻 開斗(清水昌平)	食品ロス防止・業務効率化に向けた需要予測
西山蒼大(田中勝也)	事業用地を活用した民間グリーンインフラの普及に向けた経済的評価
馬場千瑳(畑山満則)	移動時の人命に関わるリスクを考慮した避難経路に関する考察

データ提供元企業・組織(一部)

- 株式会社平和堂(清水ゼミ、姫野ゼミ)
- 一般社団法人世界メッシュ研究所(和泉ゼミ)
- 滋賀大学保健管理センター(和泉ゼミ)
- 彦根市(梅津ゼミ)
- コープさっぽろ(河本ゼミ)
- ダイハツ工業株式会社(河本ゼミ)
- 川崎重工業株式会社(河本ゼミ)
- JX金属株式会社(河本ゼミ)
- 滋賀データ活用Lab(滋賀県地域情報化推進会議WG)(佐藤ゼミ)
- 佐藤工業株式会社(市川ゼミ)
- 一般社団法人CoREF(市川ゼミ)

データサイエンス学部生の実践的演習から生まれた身近な事例集

・データサイエンスの基本

執筆者

滋賀大学データサイエンス学部 学生、教員等

協力企業

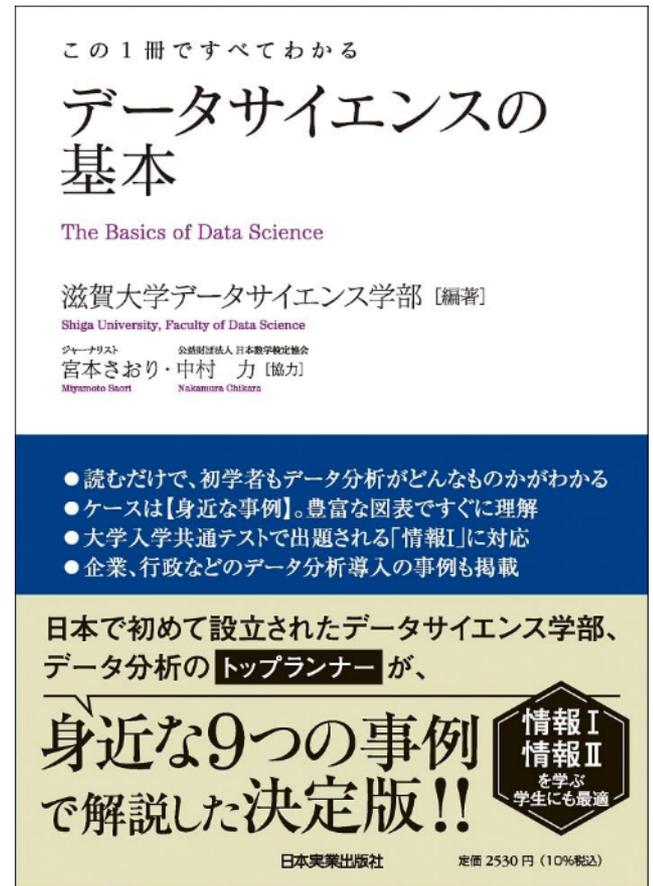
(株) 矢野経済研究所 (株) True Data
(株) インテージ (株) 日本リサーチセンター

<第一部>手軽なデータ分析の実例

- ▼第1章 〈事例〉 「聖地」としての天津市～オープンデータを知る～
- ▼第2章 〈事例〉 化粧水の分析～個票データと集計データなどを知る～
- ▼第3章 〈事例〉 年齢とお茶の味覚の関係～箱ひげ図、対応分析を知る～
- ▼第4章 〈事例〉 生活時間の分析～可視化、主成分分析を知る～
- ▼第5章 〈事例〉 地方の観光スポットの人気を高める方策～スクレイピング、テキスト解析、決定木分析を知る～
- ▼第6章 〈事例〉 経済発展と環境保護の関係～重回帰分析を知る～
- ▼第7章 〈事例〉 Virtual YouTuberへの投資～ロジスティック回帰分析などを知る～

<第二部>本格的なデータ分析の実例

- ▼第8章 〈事例〉 救急車の最適配置～区間推定を知る～
- ▼第9章 〈事例〉 ペットボトル茶の分析～統計的仮説検定を知る～
- ▼第10章 企業・自治体のデータサイエンス活用の最前線



日本統計学会
出版賞(2025)受賞

卒業生の活躍の例



データサイエンティストってどんな職業？

— 企業のデータ活用事例で学ぶ仕事のリアル —

黒木 賢一
石川 雅之
檜山 貴大
菅 由紀子
北川 淳一郎
大黒 健一 [著]

「データ分析で社会に貢献したい」
そんな学生・社会人の“1冊目”に!

- ☑ 仕事の流れとポイントを理解できる、データ活用事例集を掲載!
- ☑ 実務に役立つデータリテラシーをクイズ形式で楽しく学べる!
- ☑ サンプルデータを使って、実際の分析の流れを体験できる!



マイナビBOOKS

著作者名：黒木賢一、石川雅之、檜山貴大、
菅由紀子、北川淳一郎、大黒健一

発売日：2025年07月23日

★現役データサイエンティスト20名の
仕事内容とデータ活用事例を掲載!

← このうち2名が滋賀大DS学部卒

教材開発：MOOC(オンライン講座)教材提供



データ研磨入門の内容



第1週：データ前処理の必要性

プロローグ

対談：

データサイエンティストに求められるもの

データサイエンス業務の流れ

第2週：データサイエンスに必要なデータリテラシー

プログラミングのススメ

データ仕様の確認

データの中身の確認

データ処理基盤の概要

データ研磨をする際の心掛け

第3週：データ研磨スキル習得

データサイエンスと相性のいいデータ研磨環境

基礎スキルの理解1 ～基本設定、ファイル処理、カラム・値操作～

基礎スキルの理解2 ～レコード操作、結合処理～

基礎スキルの理解3 ～構造変換・集計処理、可視化～

第4週：データ研磨スキル習得演習

日本プロ野球選手データのデータ研磨（R編）

日本プロ野球選手データのデータ研磨（Python編）

ゲームハード販売台数のデータ研磨（R編）

ゲームハード販売台数のデータ研磨（Python編）

第5週：データ研磨実践演習

データ研磨を通じて実現したいこと

データ研磨手順の構築

データ研磨工程①

データ研磨工程②

データ研磨工程③

データの可視化

データ研磨後にやるべきこと

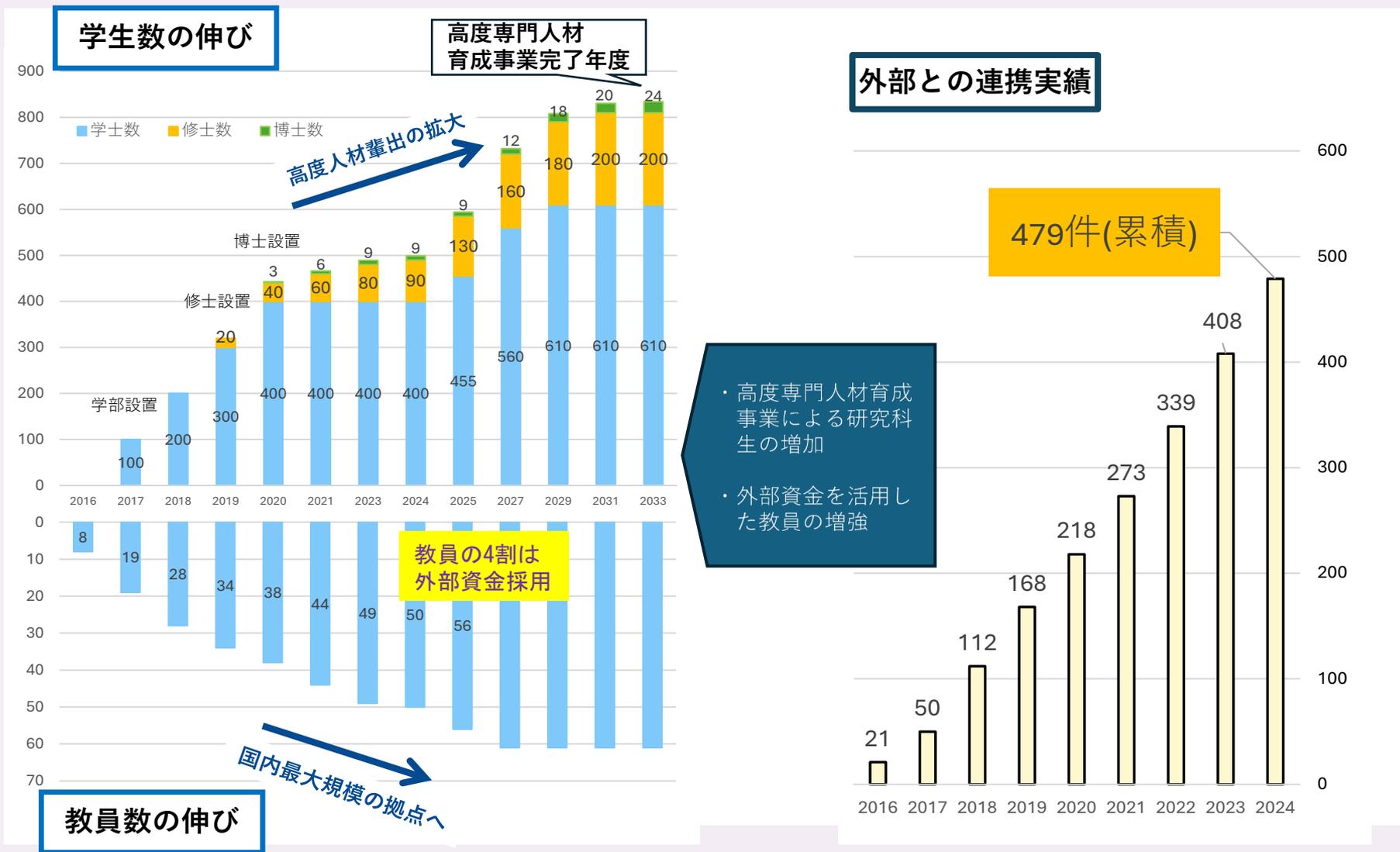
エピローグ：社会で活躍できるデータサイエンティストへ

教材開発：MOOC(オンライン講座)教材提供



拠点として急速に整備

◆国内最高水準のデータサイエンス・AI教育研究拠点の状況と今後の展望

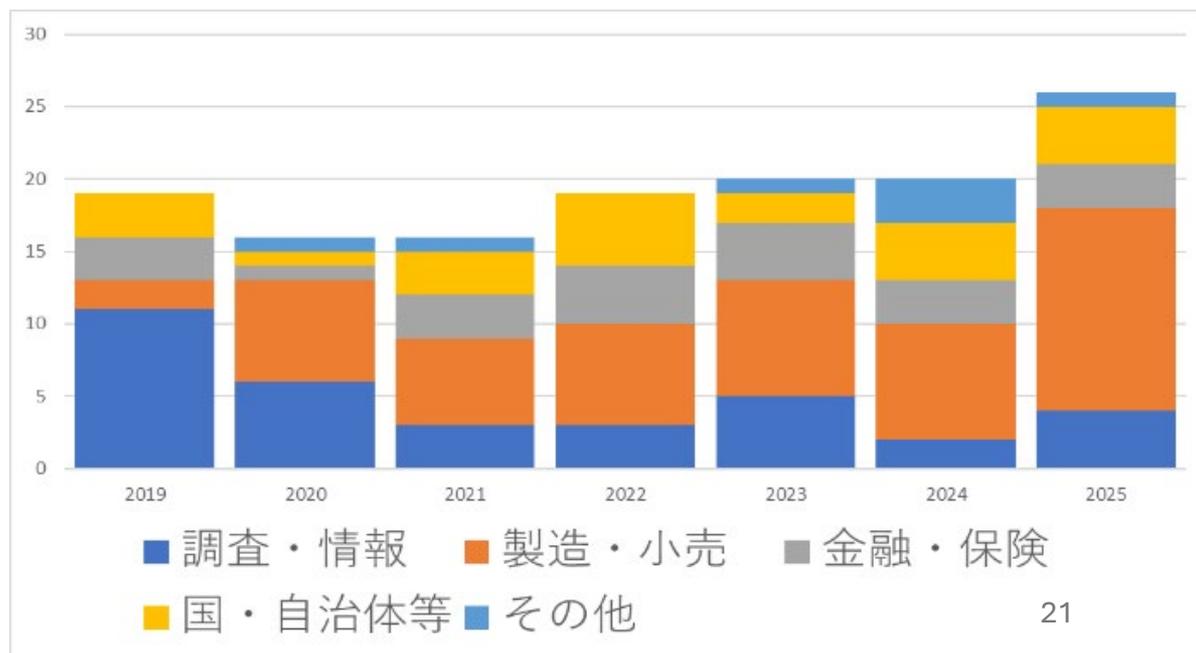


- 外部資金採用の教員エフォートの6割は企業連携
- 統計学分野以外の博士号 ← 統計エキスパート事業

大学院派遣

- 修士課程：職場の課題を修士論文テーマに設定
 - ✓ 修士1年目：講義履修。各科目は1週間集中開講。
 - ✓ 修士2年目：修士論文執筆
 - ✓ 非公開でも良い
 - ✓ 講義、ゼミともオンライン可
 - ✓ 修士院生の4割程度が企業派遣（学部卒で再度派遣の例も）

派遣元企業等の業種比率



高度情報専門人材育成事業 ハイレベル枠採択

『未来創生のための価値創造の担い手 = 高度データサイエンス・AI 専門人材育成機能強化事業』

高度情報専門人材育成機能強化事業申請 滋賀大学 事業期間：令和 5 年度から 14 年度



実績をベースに拡大好循環へ

我が国を牽引する

高度データサイエンス・AI 専門人材育成拠点

- ★博士前期課程 7 年度 **80 名** (11 年度 **100 名**)
- ★博士後期課程 9 年度 **6 名** (13 年度 **8 名**)
- ★学士課程 7 年度 **150 名** 編入学定員 **5 名**
- ★研究科担当教員 **40 名体制** (+ 実務家教員)

高度 DS・AI 専門人材

価値創造演習

AI イノベーション (新規)

データエンジニアリング データアナリシス

博士前期課程 40 名 博士後期課程 3 名
学士課程 100 名 研究科担当教員 28 名

産学公・地域連携 - 共創基盤の強化
共創人材 / 社会実装型高度専門人材の育成

実績をベースに拡大好循環へ

- ◆教材・研究課題としての地域社会課題、PBL 機会、データの提供
 - ・彦根市「救急車両配置最化」
- ◆修士課程院生への奨学金
 - ・地元企業による奨学寄付金を原資に 10 名/年に支給
- ◆協働枠組み
 - ・近江テックアカデミー (彦根市・彦根商工会議所・地元金融機関・企業・滋賀大)
- ◆地域での大学発ベンチャー
 - ・地域・中小企業 DX 支援事業起業 3 件 (内 2 件は彦根市拠点)
- ◆近江テックアカデミーの活動への院生・学生参画
 - ・地域の DX 人材育成
 - ・児童・生徒 DX 教育
 - ・地域企業の DX 化支援・コンサル
- ◆そのほか地域企業・自治体の課題解決のための共同研究
 - ・大津市 EBPM の取組が「第 6 回地方公共団体における統計データ利活用表彰」特別賞受賞
- ◆地域高等学校との連携

地域社会

産業界

- ◆教員派遣
 - ・実務家教員 3 名 (実務家比 11%)
 - ・連携企業からの特任教員 3 名
 - ・インダストリアルアドバイザー 25 名
- ◆学生派遣
 - ・毎年 20 名規模の派遣社会人
- ◆共同研究資金・機会
 - ・外部資金 12.3 倍
 - ・共同研究 1 件当たり研究費額 全大学中 18 位
 - ・院生の共同研究参加 35 名 (R4)
- ◆人材供給
 - ・高就職率 (理系修士トップレベル)
- ◆企業内 DX 人材育成
 - ・ハンズオン研修、機械学習道場
 - 例：トヨタグループへの「機械学習実践道場」毎年 100 名以上
 - ・MOOC 教材
- ◆企業課題の解決
 - ・共同研究 30 件 (R4)
 - ・コンサル面談回数 600 件以上 (R4)
- ◆協働プラットフォーム
 - ・滋賀大学データサイエンスコンソーシアム (32 企業) を通じた還元

国内外のデータサイエンス・AI 高等教育研究機関との連携

滋賀大学の教育研究の文理融合の深化
教育・経済学部との連携強化

国内高等専門学校・高等学校との DS 人材育成での連携

滋賀大学経済学研究科経営分析学専攻(MBAN)

- MBAN (Master of Business Analytics)
- アメリカでもMBAのプログラムがデータ分析にシフト
- 2025年4月に日本初の「経営分析学」を開設
- データサイエンティストを活かせる経営人材を育成
- 経営学とデータサイエンスの二刀流
- 派遣社会人10名程度



生成AIの全学的導入

- ChatGPTの大学版である ChatGPT Edu をこの4月に導入（日本初）
- AIの研究や社会実装でも他大学をリード
- まずはDS大学院、MBANの教育に全面導入
- 教員の教育研究の効率化
- 事務のDX推進

PRESS RELEASE 

2025年3月12日
[配信枚数3枚]
配信元 滋賀大学広報課

報道関係者 各位

**国内初 OpenAI 社の
ChatGPT Education を滋賀大学が導入
～すべては学生の学びの向上のために～**

2025年4月1日より、滋賀大学は国内の大学に先駆けて、OpenAI社が提供する ChatGPT Education（以下、「ChatGPT Edu」）を導入いたします。今回の導入を契機に、OpenAI社と滋賀大学は協力して、学生の学習環境のさらなる向上を推進してまいります。

OpenAI Education Forum Tokyo(3/17)でのアナウンス



データサイエンス+アートの取組

- 生成AIの発展により、文章や画像、音楽もデータサイエンスの範囲
- データの可視化もアートの
- 文化資産とデータサイエンスを組合せ



産学連携のための
新棟に和室を配置



滋賀大学・国立音楽大学による連携協定事業
国立音楽大学創立100周年記念事業

音楽 × データサイエンスの 創発セッション

日々進化を続けるAI技術は、私たちの音楽的感性や創造性にどう関わっていくのでしょうか？
音楽とデータサイエンスという異分野が交わり、まるで魔法のような化学反応が生まれるかもしれませぬ。
このイベントでは滋賀大学と国立音楽大学の連携事業として、多岐なプログラムをご用意しています。
クリエイティブな才能がぶつかりあう一日盛りだくさんのセッション、ぜひお楽しみください！

2024. 6. 1 (土)
13:00-18:30
(12:30開場、受付開始)

会場：国立音楽大学 6号館
110スタジオ
(〒190-8520 東京都立川市柏町 5-5-1)
※交通のご案内
※近所車庫/多摩モノレール「玉川上水駅」下車徒歩7分

開催形式：対面のみ
(後日オンデマンド配信予定)

定員：100名(参加費無料)

申込み締切：
5/27(月)13時まで
※定員に達し次第締め切ります。

申込み方法：
右記QRコードを読み
込んで、専用フォーム
からお申込みください。



問合せ先：国立音楽大学
教学企画室
100th 国立音楽大学
042-535-9511
国立音楽大学公式ホームページ
https://www.kunitak.ac.jp/

共催：国立音楽大学 滋賀大学
音楽音響研究会 先端芸術音楽創作学会

協賛：日本音楽情報学協会
SIGNUS

PROGRAM ①		※同日午前、音楽音響研究会および先端芸術音楽創作学会の会を 開催しております。
13:00	[開会挨拶] 梅本 実 (国立音楽大学学長)	
▶第一部：国立音楽大学と滋賀大学の教育紹介 (13:05～14:35)		
13:05	「アート、デザイン、テクノロジー、そしてサイエ ンス～国立音楽大学コンピュータ音楽専修の取り 組み～」：瀧野 健行 (国立音楽大学 演奏・創作学科 コンピュータ音楽専修)	
13:35	国立音楽大学 音楽データサイエンス・コース説明： 三浦 雅真 (国立音楽大学 音楽文化教育学科音楽情報 専修)	
13:50	国立音大生と滋賀大生のコラボレーション	
▶第二部：ポスター発表および体験 (14:35～15:45) 音楽音響研究会、滋賀大学ポスター発表		音楽音響研究会 滋賀大学 ポスター掲示 (9:00～15:45) 6号館111教室
▶第三部：基調講演 (15:45～17:15)		
15:45	①「音楽科学の研究動向と楽器メーカーからの提言」 小嶋 智史 (ヤマハ株式会社研究開発総務部)	
16:15	②「AIデータ分析に基づく音楽能力支援」 浜中 隆彦 (理化学研究所 基幹知能統合研究センター 音楽情報知能チーム)	
16:45	③「音楽家の立場から見たデータサイエンス - 音楽 の「何を」「どう」分析するのが重要なのか -」 安藤 大地 (東京国立音楽大学 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域)	
17:15	[閉会挨拶] 竹村 彰通 (滋賀大学学長)	
17:30～18:30 懇談会 (7号館)		

国立音楽大学と連携

多数の企業連携

主な連携協力先（2025年4月現在）

あいおいニッセイ同和損害保険(株)
(株)アイセロ
(株)イシダ
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)
(株)エクスプラス
江崎グリコ(株)
(株)SMBC信託銀行
(株)NXワンビシアーカイブズ
オムロンソーシアルソリューションズ(株)
カナデビア(株)
(株)SUMCO
(株)シーエーシー
(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ
田辺三菱製薬(株)
ディナレッジ(株)
(株)Terakoya.AI
(株)TOAI
東洋システム(株)
NISSHA(株)
日本ソフト開発(株)
パナソニック オートモーティブシステムズ
(株)
(株)PKUTECH
(株)日吉

(株)平和堂
(株)三井住友フィナンシャルグループ
合同会社mitei
ミラカン合同会社
(株)レゾナック
日東電工(株)
(株)帝国データバンク
(株)大垣共立銀行
(株)マイナビ
(株)brista
(株)インテージホールディングス
(株)マクロミル
エーザイ(株)
ダイハツ工業(株)
(株)アイディーズ
コスモエネルギーホールディングス(株)
(株)十六フィナンシャルグループ
(株)村田製作所
フジテック(株)
京セラ(株)
(株)NTTドコモ
アズワン(株)
日本電気硝子(株)

トヨタ自動車(株)
西日本電信電話(株)
SGシステム(株)
東海旅客鉄道(株)
(株)デンソー
アイシン(株)
(株)NTTデータグループ
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
(株)滋賀銀行
(株)関西みらい銀行
(株)クレオ
サカタインクス(株)
PwC Japan 有限責任監査法人
(株)堀場製作所
佐藤工業(株)
滋賀県
京都中央信用金庫
ネスレ日本(株)
近鉄グループホールディングス(株)
(株)日立建機ティエラ
市川甚商事(株)
(株)三菱UFJ銀行
協豊会

累計400件以上

産官学連携先向けサービスの概観

産官学連携先

政府・自治体	金融・保険	製造・物流	医療・保健	流通・建設	公益事業（電気・ガス・通信・メディア）
--------	-------	-------	-------	-------	---------------------

サービス

共同研究	学術指導	企業向け人材育成プログラム
<ul style="list-style-type: none"> 現場と協働してアセスメント、課題発見 探索的な調査 データにもとづく課題解決、改善方策 データ主導型意思決定 EBPM(Evidence-Based Policy Making) 地域創生のためのデータ利用 データ利活用の高度化、拡張 特定企業との共同研究センターによる共働 	<ul style="list-style-type: none"> データエンジニアリング データモデル フレームワーク構築 最適化 先端的データ分析手法 仮説検証 業務改革への活用 価値創造への活用 	<ul style="list-style-type: none"> DS高度人材育成 AI高度人材育成 機械学習道場 リカレント教育 社員リテラシー教育
講師派遣	教育教材開発	調査・情報発信
<ul style="list-style-type: none"> データ処理・解析手法に関する講義 統計数理に関する講義 機械学習・AIに関する講義 データ利活用事例に関する講義 	<ul style="list-style-type: none"> データ駆動型PBL演習教材 MOOC教材 小学生から社会人向けまで幅広い教材 データサイエンス入門教科書 	<ul style="list-style-type: none"> 市場動向調査 国際シンポジウム セミナー 普及啓発

- 人材育成を重視
- 手法はすべて提供

- 古典的な統計手法も重要
- 社会調査系も需要がある ← EBPM部門を新設

トヨタグループデータサイエンス実践道場

- 2017年に開始し今年で8年目
- 参加者が自分自身の課題を持って道場に参加
- 昨年度は150名規模

品質管理活動の基礎の上にある

テーマで
実践



大学先生・企業の師範による指導

成果出し

成果

- 参加者が個別の課題を持ち寄って参加（課題駆動型）
- 課題解決を優先、一年で具体的な成果を出す
- スパイラル的な人材育成（教えられた人が教える人になる循環型）
- 研究者にも刺激として、現実の課題やデータにふれる機会
- 産学連携の新たな形

まとめ

- デジタル分野での日本の遅れを指摘した。
- 日本におけるデータサイエンス人材育成の現状について説明した。
- 滋賀大学のDS活動の特徴やアート指向について説明した。
- 生成AIの取組についても説明した。
- 滋賀大学の産学連携実績を紹介した。